

# ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 249



\*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の () の数字は請求記号です。)

問) 昭和館図書室で所蔵している終戦翌年の昭和 21 年 (1946) に刊行された雑誌の中に、戦災孤児に関する記事が掲載されているものはあるか。

答) 検索端末を使って、はじめに昭和 21 年に刊行された雑誌を調べてみましょう。

雑誌 ⇒ 出版年月から探す

⇒ 昭和 21 年 1 月 から 昭和 21 年 12 月 ⇒ 774件ヒット

次に絞り込み検索機能を使って、検索結果一覧から戦災孤児に関する記事が掲載されている雑誌を探してみましょう。

絞り込み検索 ⇒ ことばで絞り込む

⇒ キーワード: 「戦災孤児」 ⇒ 2件ヒット



『婦人倶楽部 第 27 巻第 9 号 (昭和 21 年 9 月)』

(051/F64/27-9 閉架雑誌 100018921)

『婦人公論 [第 32 巻 10 号] = 351 号 (昭和 21 年 10 月)』

(051/F64/32-10 閉架雑誌 100019427)

目 図書室では、2 階ひろばで開催されている写真展「1946 明日へ」にあわせて、関連図書紹介「昭和 21 年の日本」を行っています。ぜひ手に取ってお読みください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

# 昭和の生理用品事情

## ～戦後編～

戦争が終わっても脱脂綿（衛生綿）の配給制は続き、ようやく昭和26年（1951）に統制が解除になりました。この年日本はサンフランシスコ講和条約に調印し、朝鮮戦争の特需景気をうけて、女性も働きに出て行きました。しかし女性達の生理用品に対する認識は、戦中と余り変化していませんでした。『主婦の友 第38巻第2号（昭和29年2月）』（051/Sh99/38-2 閉架雑誌 100013695）では「月経を寒さ時に冷えこむ仕事を持つ婦人はどうしているか」という特集が生まれ、漁農村、デパートなどで働く女性たちの月経について紹介されました。

### ◎寒冷地の農村婦人と月経

生理のことも、戦後大分考え方が変わってきましたけれど、まだまだ封建的な見方があって、月経の手当には苦心がいます。以前は期間中も紙を挟んだり、ボロを当てたりするだけで、なげやりな人が多かったのですが、近頃は母親学級や婦人会の講習で、丁字帯を用いる方が多くなりました。

### ◎バスガールと月経

勤務中に、思いがけなく起こって、困ったこともありました。休憩時間を待って、あわてて手洗に飛びこみ、ハンカチーフで手当てしました。それから、私たちが困ることは、ひんぱんにお手洗に行けないことです。（中略）外にしみ出して衣服を汚したりしては、と気が気でないのです。それで私は、脱脂綿を二枚重ね、間にちり紙を一枚たたんで挟むようにしています。こうすると、紙が吸い取るので、割合に脱脂綿が汚れにくく、永持ちするからです。

（旧仮名遣いを新仮名遣いに改め、旧漢字を新漢字に改めました）

昭和36年（1961）11月「アンネナプキン」の発売により、大きく変化しました。その広告は4大新聞と主要な婦人雑誌に掲載され、「吸収力は脱脂綿の5倍以上。独特の強力防水紙が、底と側面へのモレを完全にストップ」、においも消し、1回ずつの個別包装で使用後は水洗トイレに流せるという、働く女性達にとっては画期的な生理用品でした。

### 【参考文献】

『生理用品の社会史』（598/Ta84 開架 060008291）

『アンネナプキンの社会史』（498/067 開架 060008320）

一般社団法人日本衛生材料工業連合会 HP「ナプキンの歴史」

(<https://www.jhpie.or.jp/product/napkin/index.html>)

『婦人倶楽部 第42巻第14号（昭和36年11月）』

（051/F64/42-14 閉架雑誌 100032164）p261に掲載

著作権があるため掲載  
できません。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 249

2021年10月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1